令和３年度学校評価総括表

徳島県立阿南支援学校

教育目標	本年度の重点課題
＜徳島県教育の基本目標＞ とくしまの未来を切り拓く，夢あふれる「人材」の育成 ＜学校経営基本方針＞ １　教育方針 一人一人の特性に応じた教育を行い，その可能性を最大に伸ばし，社会参加や自立につながる児童生徒の育成を図る。 校　訓 あかるく　ゆたかに　たくましく ２　教育目標 （１）自らが生活するための基礎的な力を身につけ，進んで身の回りのことができる児童生徒を育てる。 （２）健康で安全な生活に努め一人一人に応じた体力づくりを行い，粘り強く活動できる児童生徒を育てる。 （３）学ぶことに興味をもち，豊かな感性を養い，自分の思いを表現できる児童生徒を育てる。 （４）生活経験の拡大を図り，人との関わりを深め，集団生活で協調できる児童生徒を育てる。 （５）社会生活に必要な知識や技能を習得し，積極的に社会参加・自立できる児童生徒を育てる。	１　安心・安全な学校づくり ・感染症予防，事故防止対策の徹底 ・防災対策の充実 ・緊急連絡体制の強化 ２　多様性を育むキャリア教育の展開 ・自己肯定感を高める教育活動の実践 ・卒業後を見据えた指導内容の精選 ・小中高がつながる学びの推進 ・教員の専門性，指導力の向上 ３　地域とともにある学校づくり ・地域と連携したした教育活動の推進 ・地域交流及び地域貢献の推進

［令和３年度学校評価総括表　小学部］　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　児童の安全や健康についての情報共有及び事故防止策の徹底	評価指標 １　学部内アンケートにおいて，児童の安全や健康について情報の共有や予防の対策ができたと回答した学部教員が，全体の 85 ％以上になる。 活動計画 １－①感染症予防のために，児童に対して手洗いや手指消毒，検温等を行い，常に健康観察をする。 １－②授業場所の換気や机の配置等の工夫をする。 １－③毎日１回は各学級をまわって確認し，環境設定等が不十分であれば改善する。 １－④月２回の学部会において，健康や安全に関する配慮事項について毎回児童の情報提供の時間を設定し，情報共有をする。 １－⑤けがや事故につながる恐れのある事象についてはインシデント・アクシデント報告書を作成し，注意喚起や事故防止対策を行う。 １－⑥職員朝会や部会で周知し，共通理解を図る。	評価指標の達成 アンケートでは，小学部の全教員が児童の安全や健康についての情報共有や予防の対策が「できた」「だいたいできた」と回答した。 活動計画の実施状況 １－①児童の手洗いや手指消毒を徹底した。検温は毎日登校後と下校前の２回行い，常に児童の健康観察を行った。 １－②窓は常に 10 ㎝程度開けておき，座席が対面しないように机の配置を工夫した。 １－③各学級を点検し，感染対策や安全面で気になった点は改善を図った。 １－④月２回の学部会において，児童の健康や安全に関する配慮事項や現状等の情報共有を行った。 １－⑤けがや事故につながる恐れのある事象についてはインシデント・アクシデント報告書を作成し，注意喚起を行い事故防止対策を徹底した。 １－⑥児童の安全に関する配慮事項が新たに生じた場合は職員朝会や部会で共通理解を図った。	総合評価 （評定） B （所見） 感染症予防の取組としては，活動計画に加えて給食介助用の手袋使用や，活動の人数制限（学習グループ見直し，学部集会を分散で行う等），教室・共有スペース・共有する教材の消毒を毎日行った。 児童の安全・健康面については学部教員との情報共有を図ることができ，小学部の全教員が児童の配慮事項を知っているという状況になっていた。目標はほぼ達成できたと考えている。	概ね良好な取組状況及び結果である。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のマスクの着用が難しい児童が在籍しているのでないか。どのように対応しているのか。 現在，実施している換気・手洗い・消毒を徹底することは大変だと思うが，続ける必要がある。	児童の安全や健康については，引き続き情報共有を図る。感染症予防については，マスクができない児童もいることから，教員ができる限りの対策を引き続き行う必要がある。 小学部教員のアンケートでは，事故予防対策が「できた」「だいたいできた」と全教員が回答したが，他の意見として「トイレで児童の手の届くところに洗剤等を置いているので危険」との意見があった。誤飲等の危険性のある物は児童の手の届かないところに置くよう徹底していきたい。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の展開 〔下位組織レベル〕 １　基本的生活習慣や日常生活に必要な知識・技能を養い，児童の自立度を高める	評価指標 １　個別の指導計画の短期目標設定時に，「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して，目標を１つ以上設定する。その目標を達成した児童が全体の 85 ％以上になる。 活動計画 １－①４月・５月に「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して実態を把握する。 １－②日常生活チェックシートでの「△」の評価の基準を教員間で共通認識できるように，基準を明確にし，マニュアルに明記するとともにチェックシートに具体例を添付する。 １－③４グループに分かれてグループ検討会を実施し，進捗状況を確認する。目標や手立てについて検討が必要なケースについては，グループ内でアイデアを出し合う。 １－④日常的にポジティブな支援を意識できるように，グループ検討会で児童への褒めエピソードを発表し合う。 １－⑤個別の指導計画の評価後に，達成状況をまとめる。 １－⑥年度末に学部教員にアンケートを行い，次年度の課題と改善策を検討する。	評価指標の達成 「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して，全児童に個別の指導計画の目標を１つ以上設定した。前期目標の達成率は 100 ％，後期目標の達成率は 97 ％であった。 活動計画の実施状況 １－①日常生活チェックシートを活用し，実態把握を行った。チェックシートの項目・内容について，わかりやすかったと 81 ％の教員が回答した。 １－② 86 ％の教員がマニュアルがわかりやすかったと回答した。例があると判断しやすかったとの意見があった。 １－③グループ検討会については，71 ％の教員が話しやすかったと回答し，教員間でアイデアを出し合えたことが役立ったという意見が複数あった。 １－④グループ検討会で児童への褒めエピソードを発表し合い，児童に応じた有効な褒め方を共有することができた。 １－⑤前期・後期の評価後に達成状況をまとめ，把握した。 １－⑥１月に小学部教員にアンケートを行い，次年度の課題と改善策を研究課と一緒に検討した。	総合評価 （評定） A （所見） 日常生活チェックシートを活用して個別の指導計画の「日常生活の指導」の短期目標を設定した。ほぼ全員の目標が達成し，児童の実態に合った目標が設定されていたといえる。４グループに分かれてのケース検討会は，ポジティブな雰囲気の中，迷っている事例について担任が抱え込まずに教員みんなで考えるという機会になっていた。	概ね良好な取組状況及び結果である。 教員の主観による評価にならないようにするには，チェックシートの評価の基準を明確にし，教員間で共通認識することは大切である。 「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートは，家庭と共有しているのか。 子どもができることに気がついていない，時間に追われて，できることも親がしている等の現状があると思う。 チェックシートを家庭でも使用することは，保護者との有効なコミュニケーションツールとなる。ぜひ，家庭と共有して取り組んでほしい。	日常生活の指導については，ほとんどの児童が目標を達成している。引き続き自立度を高めて，主体的な生活につなげていきたい。 日常生活チェックシートのマニュアルを改善したことについては，具体的でわかりやすかったとの意見が多かった。初めての教員にとってはマニュアルだけでは不十分な点もあるようで，記録の取り方などはグループリーダー等のフォローが必要な場合もあると考える。 この取組を始めて４年が経とうとしている。今後も継続していくためには，グループリーダーの育成や，誰もが少ない負担で大きな効果が得られるようなシステム作りが重要であると考える。研究課と一緒に来年度の取組について検討していきたい。

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度学校評価総括表　中学部］　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 1　感染症防止，事故防止対策の徹底	評価指標 1　マスク着用と決まった時間での手洗いができているかを記録し，達成率が 90 ％以上になる。 活動計画 1－①集会活動の計画に，新型コロナウイルス感染症防止の意義や手洗いの仕方，マスクの着用について学ぶ機会を取り入れ，定期的に確認ができるようにする。 1－②保健体育や自立活動の時間に清潔や感染症予防について，自主的な行動をとることができるようにグループ別に計画を立て，実践に取り組む。 1－③設定した時間（登校後，朝の運動後，給食前，下校前）に手洗いができているかの記録を6月,10月,1月にとり,3回の記録時に達成を出す。	評価指標の達成 1　6月，10 月，1月に記録を行った。終日のマスク着用は 7 月 89 ％から 1 月 94 ％達成した。1日4回の手洗いは 7 月 92 ％から 94 ％達成できた。 活動計画の実施状況 1ー①集会時に感染症予防や長期休業中前の注意点として教員や養護教諭から，予防に関する説明を行った。各クラスでは実態に合わせた毎日の指導を行った。 1－②保健体育や自立活動の時間に衛生に関する学習内容を計画し，グループの実態に合わせて指導・実践を行った。 1－③設定した時間に手洗いができているかどうかの記録を年間 3 回とった。回数を数えて達成率を出すことができた。	総合評価 （評定） A （所見） 終日活動の中で手洗いの時間を決めてスケジュールへの提示や教員からの促しによって手洗いとマスク着用が定着した。また，季節ごとに集会等で感染症予防について取り上げて説明したことで，生徒たちの衛生に関する知識と行動が向上した。	概ね良好な取組状況及び結果である。	手洗いやマスク着用の定着は図れてきたが，達成度に自主的な評価は入れておらず，教員の促しにより達成できた部分もある。実態に応じた指導を継続して取り組むことで自主的な行動の定着を図りたい。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 1　ポジティブな行動支援による小中高がつながる学びの推進	評価指標 1　「朝・給食・帰りのチェックシート」または「清掃のチェックシート」を活用して個別の指導計画の目標を立て，目標を達成した生徒が全体の 80 ％以上になる。 活動計画 1－①小学部で活用する「朝・給食・帰りのチェックシート」，また高等部で活用する清掃マニュアルを参考に作成した「清掃チェックシート」を生徒実態や教員の使用感に応じて改善し，正確な実態把握の効率化を図る。 1－②担任と授業担当者でそれぞれのチェックシートを使って話し合い，日常生活の指導目標に設定し，実践を行う。 1－③定期的（年間３回）に報告会を持ち，状況を共有して指導方法の改善やアイデアを出し合い，生徒のスキル獲得と自主性の向上に役立てる。 1－④コンサルテーション事業を活用し，取り組みの進め方について助言をいただき，指導の促進や改善に役立てる。 1－⑤日常生活の指導以外の課題について記録を取り，状況報告会にて報告して指導方法の改善やアイデアを出し合い実践に役立てる。 1－⑥学期末ごとに達成度を確認し，チェックシートの達成度を確認する。 1－⑦クラスごとに取り組みについてまとめ，事例報告集に掲載して成果を教員間で共有できるようにする。	評価指標の達成 1「朝・給食・帰りのチェックシート」または「清掃のチェックシート」を活用して立てた個別の指導計画目標（日常生活の指導）で，前期後期合わせて 80 ％以上の生徒が達成することができた。 活動計画の実施状況 1ー①全員が「朝・給食・帰りのチェックシート」を，実態に応じて「清掃チェックシート」を活用して生徒の実態把握に役立てることができた。 1ー②担任と授業担当者でチェックシートを共有して協議し，日常生活の指導目標を設定，指導にあたることができた。 1ー③年間３回のグループ検討会と報告会を持った。事例ごとに進捗状況の確認と今後の指導に向けたアイデアを出し合った。 1ー④のコンサルテーションを年間２回行った。進め方やチェックシートの改善に関する助言をいただいた。 1ー⑤個別の事例の記録をとって検討会にて提案した。学部全体での事例検討会を１回行い，支援方法について情報共有した。 1ー⑥学期末毎にチェックシートの達成度の確認を行った。 1ー⑦年度末に各クラス１事例をを実践報告集に掲載し，指導成果を全教員で共有する予定である。＊３月末	総合評価 （評定） B （所見） 令和２年度から継続してチェックシートの活用を行うことで定着が進んだ。教員アンケートで「活用できた」以上の評価が 100 ％と個別の指導計画の目標設定に役立てることができた。 コンサルテーションの機会を利用して，日常生活の指導（身辺・掃除）の第１層支援に加え，個別事例の検討（第３層支援）を新たに取り組んだ。教員アンケートでは指導や情報共有に「役立った」以上の評価が 100 ％であり，有用性が確認できた。実践報告集の作成とも関連付け，教員の負担軽減につなげることができたと考えられる。	概ね良好な取組状況及び結果である。 「日常生活の指導（朝・給食・帰り・清掃）」の日常生活チェックシートは，家庭と共有しているのか。 子どもができることに気がついていない，時間に追われて，できることも親がしている等の現状があると思う。 チェックシートを家庭でも使用することは，保護者との有効なコミュニケーションツールとなる。ぜひ，家庭と共有して取り組んでほしい。	日常生活の指導に関しては清掃チェックシートを改善し，活用を始める上で場面や指導者など細かなルール設定が必要である。また，使っていく中で出てくると思われる修正点を随時修正したり，コストを減らすことも課題である。 個別の事例検討では，様々なタイプの事例に合わせて記録様式を検討する必要がある。また，全体での個別事例検討会では回数や実施時間など負担感を考慮しながら進めたい。さらに自立活動との関連付けをしながら生徒指導・支援にあたり中学部での生活と高等部への支援の継続を考えたい。

＊　「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

令和３年度学校評価総括表　高等部］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自　己　評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　感染症予防，事故防止対策の徹底	評価指標 １　学部会の開催時に，感染症予防や事故防止に向けた情報共有・対応策検討の機会を設ける。 活動計画 １－①感染症や事故に関する情報を管理職に報告するとともに学部会等で共有し，対応策を検討して周知する。 １－②事故及び重大な事故や怪我につながるおそれのある事案について，「インシデント・アクシデント」の報告書の作成を促し，高等部の共有フォルダにて管理し，情報共有をはかる。	評価指標の達成度 １　学部会や学年会において，感染症予防や事故防止に向けた対応策の検討を行い，職員間での連携をはかり，情報共有のための機会をもった。 活動計画の実施状況 １－①感染症や事故に関する情報を管理職に報告するとともに学部会や学年会で共有し，具体的な対応策を検討して周知をした。 １－②事故及び重大な事故や怪我につながるおそれのある事案について，「インシデント・アクシデント」の報告書の速やかな作成を促し，高等部の共有フォルダにて管理し，情報を共有した。	総合評価 （評定） B （所見） 感染症予防に留意した配膳方法に基づいて給食指導を行うなど，状況に応じた対策を講じられた。 生徒に関するトラブルについて，早急に学部内での周知をはかり，再発防止に向けての協議を行うことができた。	概ね良好な取組状況及び結果である。	新型コロナウイルス感染症については，予断を許さない状況が当面は続くと考えられる。徳島アラート等各種警報の発出状況を見据えながら，感染予防のための対策を講じる必要がある。 生徒に関するトラブルについては，教員間における情報共有を徹底し，学部をあげて問題行動の予兆を把握し，未然防止に努めるとともに，発生してしまった場合の迅速・適切な対応策について，平時より検討し，準備をしておくことが重要である。
〔本年度の重点課題〕 展開 〔下位組織レベル〕 ・社会性の育成 ２　職業教育の見直しと検討（学科再編をみすえた教育課程の検討）	評価指標 １　コミュニケーション能力・社会性の向上が見られた生徒が 80％以上になる。 ２　学科再編検討委員会を年間３回以上開催し，提案書を作成する。 活動計画 １－①個別の指導計画において，コミュニケーション能力・社会性の向上に関する目標を立て，実践する。 １－②個別の指導計画において，コミュニケーション能力・社会性の育成に関する項目の評価が向上しているかどうかをチェックする。 １－③自立活動で扱うソーシャルスキルトレーニングの指導内容・方法を検討し，共有する。 ２－①学科再編検討委員会 ６月…学科再編について，これまでの経過を確認し，今後のスケジュールについて検討する。 ７月～１０月…県教委と協議をし，学科再編案を作成する。 ①基本的な方向性 ②教育課程に関すること ③施設設備に関すること　等 ２月…課題整理と次年度の取組を検討する。	評価指標の達成度 １　95％以上の生徒に，コミュニケーション能力・社会性の向上が認められた。 ２　学科再編検討委員会を１回，学部における検討会を２回，職業科による教育課程に関する検討会を３回実施した。 活動計画の実施状況 １－①②個別の指導計画において，多くの生徒にコミュニケーション能力・社会性の育成に関する能力の向上が認められた。 １－③各学科・コース・グループ毎に，担当者が中心となって学習計画を立て，指導を行った。また外部講師を招聘して研修会を実施し，指導内容及び方法についてのアドバイスを受けた。 ２－①学科再編検討委員会 ９月…学科再編にかかるこれまでの経緯を確認し，今後の見通しについて検討を行った。この検討委員会の結果を踏まえ，学部内において現時点の進捗状況を周知し，今後の方向性について協議した。 10 月～ 12 月…職業科の教育課程に関する検討会を３回実施した。 １月…来年度以降の高等部のあり方について，学部における検討会を実施した。	総合評価 （評定） B （所見） 自立活動で扱ったソーシャルスキルトレーニングの指導内容・方法について外部講師のコンサルテーションを受けて改善・充実に努めたこと等により，授業での学びを学校生活全般に有機的に反映させることができた。 学科再編については，計画当初とは事情が大きく異なり，徳島県内の特別支援学校全体の再編計画の流れの中で再検討する必要が生じている。そのような状況を踏まえ，現行の入学者選抜や教育課程等について，現在の地域社会からの要請も考慮しつつ，改善案の検討を進めることができた。	概ね良好な取組状況及び結果である。	富岡東高校羽ノ浦校との交流及び共同学習が中止になるなど，新型コロナウイルス感染症感染拡大少している。日常生活におけるコミュニケーションの取り方にも，感染防止に配慮した工夫が必要とされる状況が続いていることに鑑みつつ，コミュニケーション能力や社会性を身に付けるための教育活動のあり方について，引き続き検討していかなければならない。 学科再編については，計画当初とは事情が大きく異なり，徳島県内の特別支援学校全体の再編計画に大きな動きがあった。そのことを踏まえ，県教育委員会との協議を継続して行う一方で，現在の在籍生徒の実態や地域社会からの要請など，時代による変化を考慮した上で，現行の入学試験や教育課程等に関する具体的な改善策について，検討を進めていく必要がある。
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくり １　地域資源を活用した学習活動の推進	評価指標 １　竹林再生会議と連携し，地域の竹林から調達できる材料を活用した，竹和紙の紙漉き作業等の学習活動を実施する。 活動計画 ５月～竹和紙の原料となる竹の加工，漬け込み等の作業開始 ６月～竹和紙の紙漉き作業等 ７月～漉きあがった竹和紙を用いた作品作り等 11月～２月　作品展示及び成果の発表等 ３月～次年度の活動に向けた課題の検討等	評価指標の達成度 １　竹林再生会議と連携し，地域の竹林から調達した材料を活用して，竹和紙の紙漉き作業や，漉きあがった竹和紙をはがきに加工する学習活動等を実施した。 活動計画の実施状況 ５月…竹の加工，漬け込み等の作業を開始した。６月…竹和紙の紙漉き作業を開始した。７月～漉いた竹和紙を用いた作品作りを開始し，阿南市内の図書館で七夕の短冊を配布する等の活動を行った。 11月…那賀町で開催された橋上カフェで竹和紙作品の展示・販売を行った。 ３月…次年度に向けた課題を検討する。	総合評価 （評定） B （所見） 地元の竹林から切り出した竹を原料として，自分の卒業証書の用紙となる竹和紙を漉きあげたり，はがきやしおりなど，竹和紙を加工した製品を地域の催しで展示・販売したりするなど，地域住民と交流を深め，地域社会に根ざした学習活動を展開することができた。	概ね良好な取組状況及び結果である。 全学部の卒業生が自分で漉いている竹紙の卒業証書は，世界に１点のものである。この取組は素晴らしいので，ぜひ継続させてほしい。	竹林から切り出した竹を加工し，漬け込み，竹和紙を漉くまでの一連の工程を安定して行うために必要となる，十分な広さのスペースの確保が継続的な課題となっている。いろいろと工夫をして活動場所の確保に努めながら，作業学習の一講座として，竹和紙作りに継続して取組んでいきたい。また，地域の催し等に竹和紙作品を出品・展示するなど，機会を捉えて地域社会に発信する活動の幅も広げていきたい。

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　総務課］　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自　己　評　価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と
重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		学 校 関 係 者 の 意 見	今後の改善方策
	評価指標	評価指標の達成度	総　合　評　価		
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 1　校内の防災対策の見直し・検討をし，必要な訓練等を行う。	１－①５年以上保存可能な備蓄食を，児童生徒の 80%以上が準備することを継続する。	１－①５年以上保存可能な備蓄食を，児童生徒の 90 ％以上が準備することができた。	（評定） B （所見） 昨年度,長期保存可能な備蓄食への切り替えを行い,今年度も引き続き確認や更新を促すことで，90 ％以上の児童生徒が長期保存可能な備蓄食を準備することができた。 避難訓練時に，ヘルメットの着用，備蓄食の試食を追加することができた。備蓄食については，阿南市から入れ替えの備蓄の提供があり，学校全体で避難訓練後に試食を実施できた。「初めて食べたがおいしかった」「同じ備蓄食を準備しているが食べることができなかった」等，実施したことでの気づきがあった。	概ね良好な取組状況及び結果である。 避難所運営アクションカードは専門家の助言を受けて作成したのか。	今年度は，阿南支援学校防災地域連携協議会を実施することができた。阿南市危機管理部，大野公民館長より阿南支援学校の避難所としての機能等について説明があり，共通理解を得ることができた。今後の取組として，本校校長より避難所開設についての初動として，「避難所運営アクションカード」について説明した。地域住民の方々と近年のうちに合同の災害対応訓練ができるよう，まずは本校職員が「避難所運営アクションカード」について理解しておくことも必要である。 学校防災計画の改訂にあたって，学校災害対策本部編成表・配備編成計画，災害時の連絡体制を整備する必要がある。
	１－②防災備蓄品等の一覧表の更新を行う。	１－②防災備蓄品等の一覧表について，更新・改訂することができた。			
	１－③避難訓練に，従来までにはなかった訓練を追加する。	１－③地震・火災避難訓練時に，従来実施していなかった内容を取り入れて実施できた。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	１－①個別に児童生徒の備蓄食について調査・確認をする。昨年度，長期保存可能な備蓄食に切り替えができていない児童生徒については担任から保護者へ切り替えを促すようにする。	１－①全校児童生徒の備蓄食の調査を行い，長期保存可能な備蓄食に切り替えができていない児童生徒については担任から保護者へ切り替えを促した。また，個々に購入した長期保存可能な食料品を備蓄している児童生徒について，担任に管理，更新案内をするようにした。			
	１－②防災関係の備蓄品の所在と個数，配付元を明確にする。使い方について一覧表に追加して記載する。	１－②学校防災計画の改訂を行い，校内備蓄品（支給先：県，学校）と学校が避難所となった場合に使用する備蓄品（支給先：阿南市）に分けた一覧表を作成した。阿南市からの支給の水，備蓄食の入れ替えを行い，一覧表を更新した。			
	１－③地震津波想定避難訓練時に新しく配置したヘルメットを使用したり，備蓄食の試食を行ったりする訓練を実施する。	１－③火災避難訓練と地震・火災避難訓練時に新しく配置したヘルメットを使用して実施した。備蓄食の試食では水やお湯を使った簡単な調理を行い，アルファ化米飯の試食を実施した。また，地震津波想定避難訓練を地震で火災が発生することを想定した訓練に変更した。			

＊「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　教務課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自　己　評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　新型コロナウイルス感染症予防対策として，教務課が担当する行事の実施方法や内容等について検討する。	評価指標 １　各学部の実態に合わせた新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ，本来の学校行事数の70％程度を実施する。	評価指標の達成度 １　新型コロナウイルス感染症の影響で各種行事を実施する期間が重なり，授業参観については全く実施できなかったので，代替案として前･後期の保護者面談時に授業の様子を撮影した動画を視聴してもらった。その他の行事については実施することができた。	総合評価 （評定） B	概ね良好な取組状況及び結果である。	新型コロナウイルス感染症に明るい兆しが見えない状況ではあるが，来年度も今年度と同じように行事を計画し，状況が悪くなりそうな場合は，状況に合ったものを，その都度提示していきたい。
	活動計画 １　可能な限り教務課担当の学校行事を実施するため，各学部の実態に合わせた新型コロナウイルス感染症予防対策を模索する。	活動計画の実施状況 １　児童生徒には手洗い・消毒を徹底することや人と一定の距離を保つことを指導し，場所については分散させたりzoomを使ったりして感染症予防に努めた。	（所見） 新型コロナウイルス感染症の状況が日々変化しており，行事の実施も非常に難しいところではあったが，授業参観代わりの動画視聴については，普段見せることができない姿を保護者に見てもらうことができ，喜ばれたという面もあった。		
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の展開 〔下位組織レベル〕 １　キャリア教育の視点から，将来必要な力を養うための教育課程・教育内容の見直しを行う。	評価指標 １　各学部の課題をあげ，その70％について改善案をまとめ，８月上旬までに次年度の教育課程を作成する。	評価指標の達成度 １　各学部で教育課程についてのアンケートを実施した。今年度も８月の時点では特に変更する点はなかったが，１月に少し意見が出たので，３月上旬までに教育課程を作成，検討する予定である。	総合評価 （評定） B	概ね良好な取組状況及び結果である。	毎年，在籍する児童生徒の特性や教員の配置によって配慮するべき点が異なるが，児童生徒の実態に応じた学習内容や指導形態，グループ編成等について共通理解を図り，検討していく必要がある。
	活動計画 １－①小学部において，体育や自立活動の授業グループの編成や学習内容について，今年度実施しての課題点をまとめ，次年度に生かす。 １－②中学部において，生徒の実態に合わせた授業グループの編成や学習内容について検討する。 １－③高等部において，昨年度までにまとめた職業科の学科再編案について，教育課程について検討する。	活動計画の実施状況 １－①小学部において，７月と１２月にアンケートをとり，今年度より変更となった体育や自立活動のグループ編成や学習内容についての意見を集約した。意見をもとに今後，来年度の授業計画や時間割作成を行う予定である。 １－②中学部において，７月と１２月にアンケートをとり，学習内容や教育課程について検討した。グループの編成は見直し期間中に適切なグループの移動を行った。 １－③高等部において，教育委員会との話し合いで今年度は学科再編についての作業は進めないことになったので，例年通り学部で教育課程についてのアンケートを取り，意見を集約した。これをもとに，今後検討していく予定である。	（所見） 各学部において，児童生徒の実態に合った学習内容や指導形態について，教員同士で共通理解を図りながら検討を重ねることができた。教育課程がより良いものになるよう，教務課でも工夫を続けていきたい。		

＊　「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　研究課］　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の展開 〔下位組織レベル〕 １　全学部の教員からの意見をもとに,指導内容系統表と行動シートをより活用しやすいものにする。 ２　子どもたちが自信を持って参加できる授業作りや問題行動の改善のために，全学部で専門家派遣事業を活用する。	１　改訂した指導内容系統表と行動シートについて全学部対象のアンケートを行い，90％以上の回答率とする。	１　９月に全学部対象にアンケートを行い，97.5％の回答率であった。使いやすさや疑問点等を聞き，それを踏まえて現在手順の改定等の改善を行っている。	（評定） B	概ね良好な取組状況及び結果である。	指導内容系統表については，使い方や考え方に関して共通理解が十分にできていない部分があることが分かった。研修時のマニュアルの改善と，研修方法についての見直しが今後の課題である。また，卒業後を見据えたときに指導内容系統表が使いにくいという意見があった。トップダウンでの指導を行う場合には指導内容系統表だけでなく，高等部の進路別チェックリストなども活用して目標を立案するなどの改善が必要であると思われる。さらに，行動シートの記入についても，分かにりにくいや，負担を感じているという意見があった。それに関しては，研究課で今後負担感を軽減できるような使用方法等を検討していく。 コンサルテーションでは，担当リーダーが小学部にのみ在籍し，他学部の取り組みへのサポートがしづらいという部分があった。次年度以降，コンサルテーションをスムーズに進めることができるように，各学部に１名ずつ担当者を配置するなどの改善が必要であると考える。また，SWPBSの取り組みを各学部に合った形で継続していくことや，学部間の連携を図りながら進めていくことも今後必要となってくると思われる。それらの課題を検討しながら，今後も取り組んでいきたい。
	２　専門家派遣事業を活用したコンサルテーションに参加し，授業作りや問題行動の改善に役立ったと回答した教員が全体の80％以上になる。	２　コンサルテーションに参加した教員15名にアンケートを実施した。授業作りや普段の指導に対してや，問題行動の改善に対して，15名全員が「役立った」もしくは「とても役立った」と回答した。			
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		
	１－①夏季休業中に，各学部ごとに指導内容系統表と行動シートの使い方について教科担任やクラス担任を対象に研修を行う。	１－①各学部で，新赴任者と教科担任（小学部はクラス担任）を対象として，使い方等についての研修を行った。	指導内容系統表と行動シートについては，アンケートの回答率が高く，多くの教員から意見を聞くことができた。それによりいくつかの課題点を明確にすることができた。課題の１つとして挙がっている教科担任とクラス担任の役割分担が分かりにくい（中・高等部）という意見に対しては，分担を明確にするチェック表を作成して今年度中に改善を図りたい。 専門家派遣事業（コンサルテーション）では，中学部・高等部でSWPBSの取り組みを進めることができた。中学部では，全生徒を対象とした日常生活の指導の取り組みを進めるとともに，個別事例についても，研修等で指導のアイデアを多く出し合い，共有することができた。高等部でもPBSの考え方や関わり方を研修で共有することができた。		
	１－② ９月以降に全教員対象に，指導内容系統表と行動シートについてのアンケートを行う。	１－②９月に全教員を対象に，指導内容系統表と行動シートの使い方（使いやすいかどうか等）についてのアンケートを実施した。			
	１－③アンケート結果をもとに必要に応じて改訂を行うとともに，質問が出やすい箇所等についての説明マニュアルを作成する。	１－③アンケートの意見より，１年間の流れと担当者を明確にしたチェック表を作成した。また，マニュアルについては現在検討中である。			
	２－①研究課員の中から研修担当リーダーを配置し，計画書作成や指導、研修の実施に当たって，担任や担当をサポートする体制を構築する。	２－①研修担当リーダーが事例を行う学部所属ではなかったため，指導等へのサポートが十分にできていないことがあった。			
	２－②コンサルテーションを実施し，指導手続きの話し合いの機会を２回設定するとともに学部研修会や報告会を１回以上開催する。	２－②中・高等部は，SWPBSの取り組みについて10月・1月にコンサルテーションを実施した。小学部は，AI-PACコンサルテーションを８月・11月・1月に実施した。２事例で取り組み，それぞれ新しいスキルを習得するなど指導の成果があった。年度末の小学部会で，成果報告会を行う予定である。中・高等部の研修では，褒め方や指導方法のアイデアを教員間で多く出し合い，共有することができた。			

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度学校評価総括表　図書情報課］　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

<table>
<tr><th colspan="4">自　己　評　価</th><th>学校関係者評価</th><th rowspan="2">次年度への課題と今後の改善方策</th></tr>
<tr><th>重点目標</th><th>評価指標と活動計画</th><th colspan="2">評　価</th><th>学校関係者の意見</th></tr>
<tr>
<td>〔本年度の重点課題〕
安心・安全な学校づくりの推進

〔下位組織レベル〕
1　情報モラルに関する指導の充実改善を図るために，研修や啓発活動等を計画的に推進する。</td>
<td>評価指標
1　年間６回以上情報モラルに関する職員研修や啓発を実施する。また，年度末の調査において，90％以上の教員が理解し実践できたと答える。

活動計画
1　情報モラル教育年間計画をいつでも閲覧できるように配置し，職員会議や職員研修等において，啓発や研修を年間６回以上実施する。また，年度末の調査を行い成果等を評価する。</td>
<td>評価指標の達成度
1　研修や啓発を職員会議等において年間６回実施できた。年度末の調査では，90％の教員が「理解し，実践できた」と答えることができた。

活動計画の実施状況
1　情報モラル教育年間計画のデータが共有文書にあることを学部会で周知した。情報モラルに関する研修や啓発を６回以上実施した。</td>
<td>総合評価
（評定）
A
（所見）
特別に時間を設けるだけでなく，職員会議等の時間を活用することによって，日常的に意識することができたものと考えられる。</td>
<td>概ね良好な取組状況及び結果である。</td>
<td rowspan="3">前倒し感の強いGIGAスクール構想がスタートした年度であった。児童生徒や保護者，誰より教員が困惑した一人一台端末の利用が始まった。そもそもPC操作が得意ではない教員は，できる限り触らずに過ごそうとした。せっかく児童生徒にICT活用の学びの機会があっても，これでは本末転倒である。そこで，図書情報課としてはICT活用能力の向上を目指して，一人一人の教員の意識の改善や向上が必要であり，研修や啓発の工夫改善が求められている。まずは小さい集団でのミニ研修を定期的に開催できるよう，学部ごとに計画を進めていきたい。
また，PTA役員会等に出席して，GIGA端末の使い方を保護者にも説明，レクチャーし，理解と協力を求めていきたい。
学校図書館システムも軌道に乗り，貸出冊数も増え順調である。高等部では図書委員が貸出と返却の作業を行っている。
今年度重点的に取り組んだ事柄を，次年度以降も引き続き継承・充実発展させていくことが今後求められる。</td>
</tr>
<tr>
<td>〔本年度の重点課題〕
多様性を育むキャリア教育の推進

〔下位組織レベル〕
1　研修や啓発の充実を図ることによって，教員一人一人のICT活用指導力の向上を図る。また，ICT環境や校務システムの充実改善を図ることにより，小学部から高等部まで一貫した系統的な指導や指導に係る校務等を効果的かつ効率的にできるよう推進する。</td>
<td>評価指標
1－① ICT活用指導力に関する研修や啓発を年間６回以上実施する。
1－② ICT機器を利活用した授業を年間５回以上実施する教員の割合を90％以上とする。
1－③児童生徒の一人一台のICT機器を利活用し易く設定する。学部ごとに必要な研修を企画実行する。

活動計画
1－① ICT活用指導力に関する啓発や研修を年間６回以上実施するとともに，年度末に職員アンケートを実施し，どの授業または場面で実践したかについて調査する。
1－②時宜を捉えて職員への啓発を図り，具体的な授業実践に関する職員アンケートを年度末に実施し，授業実践の回数等を調査をする。
1－③各種事業等への積極的な参加を図るとともに県費等による備品の充実を図り，視聴覚機器を年間２台程度増設できるようにする。</td>
<td>評価指標の達成度
1－① ICT活用指導力に関する研修や啓発を年間６回以上実施することができた。
1－② ICT機器を利活用した授業を年間５回以上実施できた教員は80％であった。
1－③ GIGA端末に児童生徒に応じたアプリケーションの追加を行い，学部ごとにミニ研修を実施した。

活動計画の実施状況
1－①研修や啓発活動を職員会議等において計画的に行った。年度末の調査も実施し評価ができた。
1－② ICT利活用に関する啓発を行い，年度末に授業実践回数の調査を行った。
1－③新型コロナウイルス感染症対策関連の事業で，40インチのテレビが購入できた。視聴覚関連だけでなく，AppleTVなどのICT関連機器も充実した。</td>
<td>総合評価
（評定）
B
（所見）
ICT機器を利活用した授業の実施回数を増やすためには，ICT活用に苦手意識のある教員の意識改善が必要である。</td>
<td>概ね良好な取組状況及び結果である。

臨時休校中等のタブレットの持ち帰りについて
家庭の協力がなければ活用できない，故障した場合等の課題はたくさんあると思うが，できるところから始めるという取組を積み上げていってほしい。</td>
</tr>
<tr>
<td>〔本年度の重点課題〕
地域とともにある学校づくりの推進

〔下位組織レベル〕
1　地域等に対しての学校ホームページによる情報発信を活性化させ，開かれた学校を目指した取り組みを積極的に推進する。</td>
<td>評価指標
1　学校ホームページの情報発信を活性化し，更新が必要なページを年間４回以上更新する。

活動計画
1　学校ホームページの充実に向けての担当者等への啓発研修を推進する。また，更新頻度が上がるように，更新状況等について時宜を捉えて全職員に周知する。また時宜を捉えて，更新ができていない担当者に更新をするように促す。</td>
<td>評価指標の達成度
1　ほとんどのページが４回以上更新できていたが，一部のページにおいてできていない状況もあった。

活動計画の実施状況
1　昨年度後半に学校ホームページが新しいシステムに移行した。教職員の意識も高まり，啓発研修の充実を図ることができた。しかし，一部のページにおいて，啓発をしてもなかなか対応ができていない状況も見られた。</td>
<td>総合評価
（評定）
B
（所見）
一人一台のGIGA端末が配付され，オンライン授業に向けた準備が整った。しかし，児童生徒ではなく教員側がなかなか使いこなせない現状がある。アプリ等の使い方をレクチャーするミニ研修の機会も多く設けたが，児童生徒の能力差や実態の違いによって効果的に使うことができていない。また，小学部から高等部まで一貫した系統的な指導についても難しく，粘り強い啓発と研修が必要である。</td>
<td>概ね良好な取組状況及び結果である。</td>
</tr>
</table>

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　人権教育課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自　己　評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総　合　評　価		
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 人権に関する様々な情報発信を行う。	１－①教職員に対して，人権教育に関する情報発信を行い，80 パーセント以上が情報を得ることができたとの回答を得る。	１－①教職員に対して，人権放送や「サンフラワー」の紙面をとおして情報発信をしたところ 90 パーセント以上の「情報を得ることができた」の回答を得ることができた。	（評定） B （所見） 今年度は人権委員会が中心となって「ありがとうの木」の制作を行った。全学部の児童生徒及び教員の協力のおかげでみんなの「ありがとう」の感謝の気持ちを書いたサクラのカードが木いっぱいに貼ってもらうことができた。 徳島県や阿南市の人権作品応募事業において入賞した作詞作曲部門やポスター作品等の発表の機会をとおして，校内外に人権の大切さについてメッセージを届けることができた。 「平和の折り鶴」づくりでは児童生徒及び教員の協力のおかげで昨年度を上回る数の折り鶴を阿南市を通じて献納できた。平和の大切さに感謝しながら取り組むことができた。 人権放送では児童生徒の皆さんにわかりやすい内容を考えて放送当日に向けて練習をして自信をもって放送することができた。	概ね良好な取組状況及び結果である。 地域の取組である「平和の折り鶴」への参加は続けてほしい。	「ありがとうの木」の作成は感謝の気持ちを伝えたり相手のことを想ったりする大変貴重な機会となった。来年度についても当たり前のことに感謝をする気持ちや自分や周囲の人を大切にする心の育成を目指し取り組むことができるようにできればと考える。 人権の歌については今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため実際に歌うことはできなかったが，生徒の素直な気持ちが歌詞となって切なる願いの歌が仕上がった。来年度も生徒の心の声を引き出しながら活動を続けることができればと思う。 「ありがとうの木」や「平和の折り鶴」等の活動において，担任外の教員は，担任の教員と比べて，児童生徒と共に活動できる機会が少ないため，参加している実感が乏しくなってしまっていることがある。全教員が自分も参加していることを感じられるような取り組み内容を考えたり，取り組み方法を工夫したい。
	１－②児童生徒の人権に関する活動を３回以上設定し，校内や校外へ発信する機会を持つ。	１－②校内では「ありがとうの木」の制作をとおして３ヶ月に一度人権委員会の生徒が全学部のクラスに行き，サクラのメッセージカードを配付する活動を行ったり，学校祭では人権ポスターの掲示を行ったりした。 校外では人権ポスターや人権の歌を応募して活動の発信をすることができた。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	１－①-1 人権新聞「サンフラワー」の紙面を活用し，職員会議の時間に「プチ研修」を年間６回以上実施する。	１－①-1　「サンフラワー」は奇数月に発行し，その月々で社会的に話題になっている内容を掲載して職員に５回（１／２８現在）周知することができた。			
	１－①-2 12 月に校内人権教育研修会を実施する。	１－①-2　12 月７日に校内人権教育研修会を職員と保護者対象に体育館にて実施することができた。			
	１－①-3 人権教育課の掲示板や職員朝会を活用し，講演や研修会等の案内を 10 回以上行う。	１－①-3 新型コロナウイルス感染症拡大のために研修会などが中止になったことがあった。			
	１－①-4　1 月中に教職員に対して情報を得ることができたか，アンケートを実施する。	１－①教職員にアンケートを実施した結果，90 パーセント以上の「人権教育に関する情報を得ることができた」の回答を得ることができた。			
	１－②-1 さわやかクラブや人権委員会のメンバーによる人権放送を昼休み時間に８回以上持つ。	１－②-1　人権放送については人権委員会とさわやかクラブのメンバーで５月から毎月実施でき １月までで８回実施できた。（３月までにあと２回実施予定）			
	１－②-2「平和の折り鶴」づくりを６月から７月に行い，８月の平和市民祈念集会に献納する。	１－②-2　「平和の折り鶴」では６月から７月まで児童生徒・教職員に呼びかけて 2120 羽作成することができた。阿南市を通じて広島県に献納することができた。			
	１－②-3 県や市が主催する作品募集事業に２回以上応募し，作品発表を行う。	１－②-3　あいぽーと徳島県主催の募集事業に応募し作詩作曲部門で人権の歌「ねがい」が知事賞を受賞した。阿南市主催の作品では人権ポスターで最優秀賞を受賞した。人権の歌「ねがい」は校内の人権放送で４回流した。			
	１－②-4 人権委員会を中心に「ありがとうの木」を制作し，校内に掲示する。	１－②-4　「ありがとうの木」の制作では全学部の児童・生徒・教員にサクラのメッセージカードに「ありがとうの気持ち」を書いてもらった。沢山のサクラの花を咲かすことができた。			

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　生徒生活指導課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　児童生徒自らが感染予防や事故防止のための適切な行動がとれる。 ２　緊急時の教員間の連携体制や役割分担が周知できる。	１-①　自力通学生に対する通学指導を年 12 回以上実施する。	１-①　毎月学校安全の日を中心に１月までで 15 回実施することができた。	（評定） B	概ね良好な取組状況及び結果である。 自転車通学生，路線バス通学生の人数について 特に南からの路線バスの便が少なく，自力通学は難しいのでないか。 公共交通機関が不便なので，路線バス通学ができないという現状があるのでないか。自転車通学で遠距離となると安全面で心配が生じる。重度な人が路線バスで通所している市町村がある。卒業後の自立した生活のために，路線バスの経路や本数について市にパブリックコメント等を通じて要望していく必要がある。	次年度も今年度と同じく学校安全の日と長期休業前後など定期的に通学指導や集会を実施し，生徒自らが自分の命を守るため適切な行動がとれるよう指導方法等を考えていきたい。 毎月の自転車点検の実施率を１００％にできるよう，担任との共通理解や連携を確実にできる周知の仕方を考える。 今年度の訓練時のアンケートで確認できた改善点をふまえて，来年度の訓練計画を立て，緊急時の本校職員のスキルアップを図る。
	１-②　自転車通学生に対する毎月の自転車点検を 100 %実施する。	１-②　１月までで 80 %の実施率であった。			
	１-③　生徒自らが感染予防が適切にできているか等を振り返る機会を年 10 回以上設定する。	１-③　毎月の学校安全の日の集会を利用して１月までで９回実施。２月と３月も実施予定。			
	２　児童生徒捜索マニュアルと不審者侵入対応マニュアルを元に各１回ずつ訓練を実施し，訓練後のアンケートで 90 %以上の教員からマニュアルや自分の動きが「わかりやすかった」との回答がある。	２　児童生徒捜索マニュアルでは，90.5 %の教員からわかりやすかったとの回答を得た。 不審者侵入対応訓練では，自分の動きを把握できたとの回答が約９割あった。			
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		
	１-①　学校安全の日や長期休業明けに阿南駅および南島交差点と坂下横断歩道の３カ所で立哨指導を行う。	１-①　学校安全の日と長期休業明けの通学指導で３カ所の立哨指導を実施した。	学校安全の日や学部集会を通して，各自が登下校時や学校生活の行動を振り返り，感染予防や事故防止のための適切な行動について考える場面を設定することができ，自らが適切な行動がとれるようになってきていると感じている。 自転車点検については担任との連携が徹底できないときも年度当初はあったが，現在は点検が徹底され，事故につながる整備不備も無く安全に登下校できている。 児童生徒捜索訓練や不審者侵入対応訓練を計画･実施でき，マニュアルの周知から役割ごとの動き・マニュアルの見直し点など教員間の共通理解が得られた。		
	１-②　学校安全の日に担任が立ち会い実施する。当日欠席や実習中の場合はその月内に実施する。	１-②　ほとんどの生徒の場合当日もしくはその月内に実施できたが，特定のクラスで徹底できない月も有り実施率は８０%程度であった。			
	１-③　学校安全の日の集会の中で登下校時および学校生活で生徒各自が感染予防が適切にできているか行動の振り返りを行い，適切な予防について確認する。	１-③　感染予防方法の確認と行動の振り返りを行う場面を設定し，感染予防の徹底を図ることができた。			
	２-①　児童生徒捜索マニュアルと不審者侵入対応マニュアルを令和３年度版に改訂し職員会議で周知する。	２-①　訓練実施前に全職員にマニュアルを周知することができた。			
	２-②　児童生徒捜索訓練では捜索班の動きを事前に共通理解し，本部との連絡をスムーズにするとともに，訓練後に校外捜索用の地図の見直しが必要なら行い，今後本部と捜索班の連絡や指示が的確に行えるようにする。	２-②　事前に校外捜索班の教員に各捜索範囲の地図を見せて，捜索順序や連絡方法について研修を行った。訓練後にはアンケートを行い地図の改訂すべき点の確認も行った。			
	２-③　不審者侵入対応訓練では教員の動きを動画で記録し，訓練後に振り返ることで緊急時の動きを役割ごとに確認できるようにするとともに，他の役割の動きも把握してもらい，全体の動きを全教員が共有できるようにする。	２-③　３名が動画撮影を担当し，不審者対応，小学部避難，中学部避難の各動画を撮影した。訓練後に体育館で全教員で視聴し訓練時の教員の動きを確認することができた。			
	２-④訓練後にアンケートを実施する。	２-④　訓練後にアンケートを実施し，マニュアルの見直し点や訓練方法について次年度に引き継ぐことができた。			

＊　「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　特別活動課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自　己　評　価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	今後の改善方策
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　感染症予防，事故防止対策の徹底	評価指標 １　「体育の日」と「学校祭」を，感染症予防対策を徹底して，計画，運営することができる。	評価指標の達成度 １　「体育の日」と「学校祭」を，感染症予防対策を徹底して，計画，運営することができた。	総　合　評　価 （評定） Ｂ	概ね良好な取組状況及び結果である。	新型コロナウイルス感染症について，次年度はまたどのような状況になるかわからないが，昨年度や今年度とは違う状況が起こることも予想される。次年度も状況に応じて，児童生徒や保護者の意向を踏まえながら，管理職を中心に職員間で十分な協議や共通理解を行い，全校一丸となって計画，運営することが必要と思われる。
	活動計画 １－①特別活動課において，感染症予防対策を最優先に考えて計画と運営について協議し，「体育の日」と「学校祭」の原案を作成する。	活動計画の実施状況 １－① ・「体育の日」については，５月 10 日の特別活動課会で協議し，原案を作成した。 ・「学校祭」については，７月５日の特別活動課会で協議し，原案を作成した。	（所見） 新型コロナウイルス感染症が拡大して２年目の「体育の日」と「学校祭」ということで，昨年度の経験が生かせると考えていたが，そう簡単にはいかなかった。 「体育の日」については，直前に新型コロナウイルス感染症が拡大し，近隣の高等学校でクラスターは発生するなど，判断や対策をより慎重に行った上で実施であった。校長の判断や指示に沿って，全校一丸となって取り組み，予定通り実施できた。 「学校祭」についても，より慎重に協議し共通理解していくため，計画案を２段階で提案し，実施につなげた。屋内での実施で，感染症対策はより細かく行う必要があったが，校長の判断や指示のもと，全校児童生徒，保護者，教職員が一体となって取り組み，予定通り実施できた。		
	１－②原案を学部会，運営委員会で協議，調整した上で，職員会議に提案し実施要項を作成する。	１－② ・「体育の日」については，５月２５日の学部会，６月 10 日の運営委員会で協議し，調整し，実施計画を作成した。 ・「学校祭」については，７月６日の学部会，７月９日の運営委員会で協議し，調整し，実施計画を作成した。			
	１－③実施要項を基に，各学部や係の進捗状況を把握する。懸案事項や協議事項が生じた時には，その都度管理職等と相談しながら修正する。修正事項や共通理解事項が生じた時には職員会議等で連絡し，共通理解を図りながら準備を進める。	１－③ ・「体育の日」については，８月 19 日に「とくしまアラート・特定警戒」が発動されたことを受け，校長を中心とする実行委員会で実施の形態を９月 14 日に検討し，職員や児童生徒，保護者等に周知するなど，調整と連絡に努めた。 ・「学校祭」については，10 月４日の特別活動課会で第２次案の原案を作成し，10 月８日の運営委員会，10 月 18 日の職員会議で決定するなど，調整と連絡に努めた。			
	１－④直前に各学部や係ごとに最終確認するよう依頼する。保護者や全教職員に確認事項を改めて周知し，認識や行動にズレや違いが生じないようにする。	１－④ ・校務分掌ごとに割りふりしている業務については，各課長等と連携を図った。体育や美術等，教科や個人に割り振りしている業務については，教科主任等と連携を図った。			
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　地域交流及び地域貢献の推進	評価指標 １　マスコットキャラクター「ひまちくりん」を介し，本校の情報を阿南市や周辺市町に発信する。	評価指標の達成度 １　マスコットキャラクター「ひまちくりん」のモザイク画を全校児童生徒で制作し，キョーエイ上中店に展示することができた。	総　合　評　価 （評定） Ｂ	概ね良好な取組状況及び結果である。	今年度モザイク画を制作して展示したことで，スーパーに来客した地域の皆様に作品を観ていただくことできた。来年度も，より多くの方に観ていただくため，市役所や地域の商業施設と連携して展示させてもらえるよう検討する必要がある。 モザイク画の制作過程を撮影した動画については，作業スケジュールについて詰めが甘いところがあった。地域の専門家の方との連携を含め，より綿密で組織的な計画や運営が必要である。
	活動計画 １－①各学部ごとに美術や生活単元学習を利用して，一部竹紙を使用したひまちくりんのモザイク画（Ｂ１サイズ３点，Ｂ２サイズ２点）を作成する。	活動計画の実施状況 １－① ・ひまちくりんを３分割し，各学部ごとにＢ１サイズ分制作し，３枚を並べ合わせる形のものを作成した。	（所見） モザイク画については，当初の計画から変更し，より大きなもの１点を制作した。美術科の教員のアイデアと労力によって準備が整い，全校児童生徒がかかわった大作が完成した。完成品を見た児童生徒たちは，たいへん喜んでいた、 展示については，県教育委員会の「地域との連携によるアート展」事業としてキョーエイ上中店に展示した。		
	１－②モザイク画を交流校（大野小，長生小，加茂谷中，富岡東高羽ノ浦校）や自治体に持参し，掲示するよう依頼する。	１－② ・モザイク画を学校祭で初公開した後，12 月 23 日から１月６日にかけてキョーエイ上中店に展示した。			
	１－③地元ケーブルテレビと連携し，モザイク画の制作過程から完成までの様子を撮影，放送してもらう。その際，学校の近況に関する情報の発信を行う。	１－③ ・阿南市にお住まいで，主に映像作家やダンサーとして活躍されている松尾佳典氏がひまちくりんのモザイク画制作の様子を撮影してくださった。現在その動画の編集作業の途中であるため，ケーブルテレビ等での放送には至っていない。			

＊ 「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和３年度学校評価総括表　進路指導課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　安心や安全に配慮した就業体験を計画し，実施する。	１安心や安全に配慮した就業体験が実施できたという高等部教員の評価が 90 ％以上となる。	１　就業体験実施後の高等部教員アンケートにおいて「安心安全に配慮した就業体験ができた」が 87.5 ％ となった。	（評定） Ｂ （所見） 常に新型コロナウイルス感染状況をみながら実習を立案・計画・実施し実習先とも連絡を密にして就業体験を実施した。 昨年度同様に，就業体験前に新型コロナウイルス感染症防止対策として保護者に文書を配布し，保護者の危機管理や安全対策の意識づけができた。また，生徒の健康チェックを保護者の方に再確認を依頼するとともに，引率教員も健康チェックを行うことで安全への意識が高まった。日頃の生徒・職員のマスク着用や・手洗い・消毒の習慣も継続して実施することができた。また，報告会などで生徒全員が集まる場面も考えられたため，４ヶ所の教室に分かれて，オンラインの実施で対応した。	概ね良好な取組状況及び結果である。	今回のアンケート結果において，「新型コロナ対策感染対策に配慮し，安心安全に就業体験ができたか」という項目に対して，「できなかった」の回答が２名挙がり，詳細の記載を求めることができていなかった。そのため，再度，「どの点を改善すべきであるか」を学部内で再度確認し，次年度の実施計画の改善方策に焦点を当てて取り組んでいこうと考える。 ワクチンの接種も実施でき安定してきた状況になりつつあるが，新型コロナウイルスのさらなる変異も言われており，継続してさらなる感染症防止対策を行ったうえでの就業体験の実施が不可欠であると考えられる。 校外での就業体験においても，今年度と同様に新型コロナウィルス感染症の動向をみながら関係機関と密に連絡を取り，そのときのベストな安全対策を考えて就業体験の計画の立案・実施を行って行かなければならないと考える。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	１－①就業体験受け入れ先及び保護者に新型コロナウィルス感染防止対策についての文章を作成・配付して就業体験への協力を依頼する。	１－①全就業体験実施時，保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策についての文章を作成・配付して就業体験への協力を依頼した。			
	１－②保護者に新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえでの就業体験への参加の有無を選 択してもらう。	１－②　就業体験実施時に保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策をとったうえでの就業体験への参加の有無を選択し，実施の場合は参加願いを提出してもらった。			
	１－③健康観察表を作成し，生徒本人及び巡回指導に関わる引率教員の健康チェックを行い，それぞれ確認印をもらう。	１－③就業体験中，生徒及び引率教員ともに朝・夕の検温と健康チェックを行い，それぞれ健康観察表に記入し，生徒は保護者の確認印をもらい実習を行った。			
	１－④就業体験実施前に引率教員への新型コロナウイルス感染防止対策を周知徹底する。	１－④実習先に提出する『新型コロナウイルス感染症防止対策』の文書を元に，実習前の部会にて引率教員に新型コロナウイルス感染症防止対策を周知徹底した。			
	１－⑤感染拡大状況等を考慮しながら感染予防対策や就業体験の計画・実施等について課会で検討する。	１－⑤感染状況等を考慮しながら感染症予防対策や就業体験の計画・実施等について保護者や担任の意向を元に，前期後期ともに随時進路課で検討を行った。			
	１－⑥必要に応じて事業所や施設と適宜連絡をとる。	１－⑥打ち合わせ時や実習あいさつの時（打ち合わせ），必要発生時に事業所や施設と適宜連絡をとり，急に実習を延期するなどの対処を行うことができた。			
	１－⑦就業体験実習終了後，高等部全教員対して就業体験実施についてのアンケートを作成し，とる。	１－⑦前期後期ともに，校内及び校外の就業体験実習について，終了後に，高等部全員を対象にアンケートを実施し，全員から回収することができた。			

＊　「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和３年度学校評価総括表　特別支援教育課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 ２多様性を育むキャリア教育の展開 ３地域とともにある学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　本校教員の専門性，指導力の向上を図るとともに，地域の特別支援教育に貢献できるよう，センター的機能の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 （評定） B （所見） 研修会の開催が厳しい状況の中，ICT を活用するなどして研修会を開催することができた。アンケートの結果からセンター的機能の１つを果たすことができたと考えられる。 また，SWPBS を広める活動を実施できたことは，これからの地域の特別支援教育の発展に繋がる一助になったと思う。	概ね良好な取組状況及び結果である。	校内や地域のニーズを基に,引き続き研修内容や講師,開催方法などを検討し，本校教員の専門性，指導力の向上を図るとともに，地域の特別支援教育に貢献できるよう，センター的機能の充実を図るよう務める。 巡回相談員の専門性は常に高いものが求められ，校内外問わずニーズが高い。マンパワーに頼りすぎることが無いよう，本校教員のさらなる専門性や指導力の向上が重要である。そのため，今年度実施できなかった「発達障がいの疑似体験」研修は次年度実施したい。
	１－①専門性向上，指導力の向上を図ることができるような本校職員と地域を対象とした公開研修会を２回以上開催する。アンケートを実施し,「専門性の向上が図れた，または今後の指導 に生かすことができる」との回答が校内外ともに 80 ％以上である。	１－①夏季休業中に３回の公開研修会を予定したが，新型コロナウイルス感染症拡大により，リモート形式で研修会を２回開催することができた。アンケートの結果より「専門性の向上が図れた，または今後の指導に生かすことができる」との回答は校内外ともに 98 ％と 100 ％だった。			
	１－②総合教育センターと連携し，巡回相談員の活動として，地域の小中学校に SWPBS を広める活動を実施する。	１－②総合教育センター主催の研修において，研修進行の補佐として参加し，SWPBS を広める活動を実施した。その後の進捗について，センターの指導主事とのメールのやりとりで確認し，教育相談の機会を通して助言を行った。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	１－①-1 特別支援教育パワーアップ事業を活用し，外部講師を招聘して研修会を１回開催する。	１－①-1「ステーションみらい」より，赤壁省吾氏を招聘し，全体研修並びに公開研修をリモート形式で開催した。			
	１－①-2 本校教員を講師とし，専門性，指導力の向上に繋がるような研修を１回以上開催する。	１－①-2 本校教員が講師となる「発達障がいの疑似体験」と「進路指導」をテーマとした研修会を２回計画をしたが，新型コロナウイルス感染症感染拡大により，体験型の研修は中止となった。進路指導についての研修はリモート形式で開催できた。			
	１－①-3 専門性，指導力向上に関するアンケートを参加者全員を対象に実施する。	１－①-3 学校ホームページのアンケートフォームを活用して参加者全員を対象にアンケートを実施できた。アンケートの回答率は 81 ％と 57 ％だった。２回目のアンケート回答率が低いのは，分校の回答が 1 /10 名だったことによる。			
	１－②-1 ２校で実施し，各校２回程度訪問する。その際，SWPBS に関する研修や指導・助言を行う。	１－②-1 小学校に２回訪問し，SWPBS について研修支援と教育相談の事例を通して助言を行った。中学校に関しては要請がなく，訪問する機会がなかった。			

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和３年度総括評価表　保健環境課］　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくり 〔下位組織レベル〕 １　児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように感染予防対策の徹底を図る。 ２　教員対象の研修を計画し，傷病者発生時の緊急対応について，意識やスキルを高める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 （評定） B （所見） 感染症予防対策に関するマニュアルや基本方針を学校全体に周知し，各チェック表を活用したり，最低２回の検温を習慣化したりすることで，感染症予防対策への意識を高めることができた。 緊急対応についての研修の参加率が高いのは， 自分が対応者になるという意識が高いと捉えることができる。 今年度初めて試みた動画視聴での研修においては，実技を行っていないため，危機管理意識や実際の行動に結びついているかが不十分である。	概ね良好な取組状況及び結果である。	今年度の取り組みにおいて，教員の感染症予防対策に対する意識を高めることができた。次年度も引き続き，感染症予防対策についての話し合いやチェックシートの活用，消毒・検温の徹底等を継続して取り組んでいきたい。 研修への参加率が 90 ％を超えることができたため，次年度も研修の目的を明確にしながら，研修を周知していきたい。また，実技練習を行わない研修については，動画視聴形式とし，アンケートの内容を，動画を視聴しないと回答できない内容や場面を想定して考える必要がある内容等，検討し，より身のある研修の在り方を模索していきたい。
	１　感染症予防対策（健康観察や手洗い・手指消毒，マスク着用，定期的な消毒，給食における予防対策）が徹底されたという教員の評価が 80 ％以上となる。	１　感染症予防対策を徹底できたという教員の評価が，４・５月は 96.4 ％，６月以降は 100 ％であった。			
	２　５種類の緊急対応についての研修（スクールバス発作対応研修，窒息誤飲対応研修，食物アレルギー対応研修，緊急対応研修，救命講習）において，教員の参加率が 90 ％となる。	２　５種類の緊急対応についての研修において，教員の参加率は 95.4 ％であった。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	１－①登校後と下校前の健康観察表を各クラスに配布し，表に基づいて担任が児童生徒の検温・観察を行う。異常の早期発見に努め，迅速に対応する。	１－①登校後と下校前の毎日最低２回の検温と健康観察を実施し，健康観察表に記録した。普段と体調が少しでも異なる場合は，養護教諭に連絡する等，迅速に対応した。			
	１－②給食当番チェック表，健康観察表（教員用）を作成し，給食当番の健康状態等を確認する。給食においては，密を避けるための環境設定を行う。	１－②給食当番チェック表や教員の健康観察表を各教員が記録していくことで，衛生面や健康管理面への意識を高めることができた。			
	１－③感染症予防対策チェック表を作成し，それぞれの項目（a 手洗い，b 手指消毒，c 換気，d 定期的な消毒，e マスク着用，f 保健室との連携，g 児童生徒への指導について）について，月に１回クラス毎にチェックして振り返るようにする。気になったところは職員全員に周知し，学校全体で感染症予防対策に取り組むことができるようにする。	１－③感染症予防対策チェック表へのチェックを，毎月末に１回クラス毎に依頼した。できていなかった項目は，職員朝会にて呼びかけた。養護教諭による校内巡視も行った。			
	１－④月１回の課会において，校内ガイドラインや感染予防対策の不備や改善点を話し合い，健康管理や環境衛生を良好に保つ取り組みを進める。決まったことを月１回の職員会議等で提案し，職員全員に周知する。	１－④月１回の課会では，感染予防対策や校内の状況を話し合った。健康管理や環境衛生の改善点については，職員会議や学部会で具体的に説明し，周知した。			
	２－①研修の内容について，ポイントをまとめた資料を作成し，配布する。内容によっては，場面や状況を設定して実際の対応を撮影した動画を作成し，研修に活用する。	２－①それぞれの研修において，モデリングしながら資料の説明を行い，実技の練習を行った。緊急対応研修は，感染症予防の観点から動画試聴形式で行った。			
	２－②参加時に名簿チェックを実施し，研修後に集計する。	２－②研修後に，名簿のチェック表やアンケートを確認し，参加率を集計した。課会で報告し，次回に向けて話し合いを行った。			

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった